

効果的な新聞活用の実践を通して、互いに認め合いながら、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成を図るにはどうしたらよいか。（指定３年目の実践）

曾於市立大隅南小学校 校長 大庭安孝

1 研究主題で目指すもの

①コミュニケーションの力、道徳心の育成、②思考・判断力、表現力の育成、③指導法改善、言語活動としての「新聞活用」の在り方

2 N I E実践指定３年目の推進方針

（１）研究の仮説

仮説１ (授業での実践)	教科等の学習目標に沿った言語活動として新聞記事を活用することで、目指す学習目標を達成することができるのではないかな。 (新聞記事を活用した授業の実践)
仮説２ (家庭との連携)	家庭との連携を図り、新聞記事を基にした家庭でのコミュニケーションの場を設定することで、児童の表現することへの意欲が向上し表現力が高まるのではないかな。 (ファミリーフォーカス)

（２）N I E実践指定３年目の研究視点と計画・方法

効果的な複式学習指導とN I Eの積極的な取組の推進 (学習目標の達成に向けた言語活動としての新聞活用の研究とその効果の実証)	
読 む 考 える	○複式学習指導の在り方とN I E実践による学力向上研究 ① ３・４年社会科複式 ② ５・６年国語科複式 ③ １・２年国語科複式
環 境 づ くり	○複式学習における児童の主體的な学習を進める学習揭示 ○新聞記事に対する思いや考えの揭示（週末N I E課題：親子での取組） ○新聞記事を閲覧・活用できる場の設定（新聞コーナーの設置） ○新聞に掲載された投稿作品や学校関係記事の揭示（学習への意欲喚起）

3 N I E実践の実際

（１）授業実践

① ３・４年社会科複式学習（研究の重点：基本的な複式学習指導の在り方の研究）

学 年	３ 年	４ 年
単 元 題 材	わたしのまち みんなのまち 「わたしたちの校区の様子」	安全なまちづくりをめざして 「事故・事件からくらしをまもる」
本 時 学 習 目 標	曾於市にある様々な施設でも実際に行ったことのないところがあることが分かる。	交通事故が起こると、どのような人たちがどのようなはたらきをするのかを理解することができる。
展 開	１ 新聞を読み、都道府県名を見つけ、地図に色をぬる。（毎時の学習始めの活動） ２ 学習のめあて「曾於市でこれまで行ったことがあるところを見つけよう」を立て、調べることを確認する。 ３ 自分がこれまでに行ったことがある場所を発表し合う。 ４ 「わたしたちの 曾於市」（副読本）から行ったことのある場所を見つける。 ５ 拡大地図を見て行ったことのある場所	２ 新聞から交通事故に関する記事を見つけ、その内容を読み取る。 ３ 学習のめあて「交通事故が起こると、どんな人がどんなはたらきをするのだろうか」を立て、調べることを確認する。 ４ 教科書を基に、交通事故発生時の仕事



	を示しながら、それぞれの離れ具合（距離）を話し合う。 6 曾於市で自分が行ったことのない施設を調べる。	 の様子を調べる。 5 調べたことを発表し合い、関係機関や人々の役割を話し合う。
N I E の視点	○ 新聞の中から都道府県名やその位置を地図で確かめることを通して、基礎・基本となる社会科の知識・理解を高める。 ○ 新聞記事を読み取る活動を通して、学習課題を解決するための情報を見つけ、学習目標の達成につなぐ。	

② 5・6年国語科複式学習（研究の重点：学習目標達成への新聞の有効な活用）

学 年	5 年	6 年
単 元 題 材	説明のしかたのくふうを見つけ話し合おう 「天気を予想する」（光村図書） 理由づけを明確にして説明しよう 「グラフや表を用いて書こう」（光村図書）	筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう 『鳥獣戯画』を読む（光村図書） 読み取ったことや感じたことを表現しよう 「この絵、私はこう見る」（光村図書）
本 時 学 習 目 標	教材文の表現の工夫を調べ、分かりやすく説明する工夫について考えることができる。	教材文の筆者の見方や感じ方の表し方を調べ、自分の見方や感じ方を読み手に分かりやすく伝える工夫を考えることができる。
展 開	1 教材文「天気を予想する」を読み、筆者の説明の工夫について確かめる。 2 学習のめあて「伝えたいことを分かりやすく説明するためにはどのような工夫をすればよいだろうか」を立てる。 3 教材文「天気を予想する」で活用される絵や図表、グラフ等と文章の関係を調べる。 4 説明に図表やグラフ等を用いる工夫を確かめ、学習のまとめをする。 5 新聞から図表やグラフ等を用いている記事を見つけ、その効果を考える。	1 学習のめあて「自分の見方や感じ方を分かりやすく説明するためにはどのような工夫をすればよいだろうか」を立てる。 2 教材文『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の表現の工夫を調べる。 3 筆者が教材文に表した語彙と読み手に与える効果を考える。 4 文頭・文末表現の工夫を確かめ、学習のまとめをする。 5 新聞のコラムや社説欄を読み、読み手に伝えたい表現の工夫を調べる。
N I E の視点	学習のまとめの後に、新聞の図表やグラフ活用の記事を活用して読み取る活動を通して、本時で学習したことを確かめると共に、学習内容の定着を図る。	学習のまとめの後に、新聞の記事ではなく社説やコラムなど筆者の気持ちを強調する欄を読み取る活動を通して、本時で学習した表現語彙の工夫についての定着を図る。

③ 1・2年国語科複式学習（研究の重点：学習目標達成への新聞の有効な活用）

学 年	1 年	2 年
単 元 題 材	かたかなのかたち（光村図書）	ことばについて考えよう 「ようすをあらわすことば」（光村図書）
本 時 学 習 目 標	平仮名と片仮名を関連付けて、形の似た仮名に注意して正しく書くことができる。	様々な「様子を表す言葉」について知り言葉で表現することへの関心を高めることができる。
展 開	1 形や長音、拗音に気を付けながら、て	1 学習のめあて「ようすをあらわすこと

	いねいに正しく片仮名を書く。(前時の復習) 2 学習のめあて「かたかなを見つけて文をかこう」を立てる。 3 新聞から片仮名の言葉を見つけてカードに書き抜く。 4 カードを提示しながら見つけた言葉を発表する。 5 見つけた言葉で短文作りをして発表し合う。	ばのなかまわけをしよう」を立てる。 2 教材文「ようすをあらわすことば」を読み、表し方を仲間分けする。 3 調べたことを基に話し合い、様子を表す言葉を3つの仲間に整理する。 4 「雪」がふる様子について表した新聞のコラム欄を読み、様子を表す3種類の言い方を見つける。
N I E の視点	新聞から「片仮名」の言葉を見つける活動は第1学年の児童の活動として可能であることを生かし、本時の学習課題を解決するための中心活動として新聞活用を位置づけることで、「片仮名」表記への関心を高める。	教材文「ようすをあらわすことば」で「雨」が降る様子を取り上げていることから、学習したことの定着化を図るために「雪」の降り方を取り上げた新聞コラムを抜粋して活用し、言葉の広がりを読み取る学習とする。



④授業実践を通した「新聞記事」活用効果

学習目標を達成するための新聞記事の有効活用を、授業実践を通して研究してきた。

授業実践を通して、教材研究の充実による学習目標・内容と新聞記事内容の精査が重要であることと、記事の活用においては、学習転換の提示する場（タイミング）の視点が重要であることが明らかとなった。N I E実践の留意点は、新聞を「教える」ではなく「有効活用して」学習目標を達成することであることを基本として学習展開を考えていく必要がある。

本校のN I E実践指定1年目から3年目までの授業実践で、新聞記事の活用を図った（提示した）学習過程は次のようにまとめられる。

	主な学習過程	有効な「新聞（記事等）」活用	活用した授業実践
導 入	振り返る 関心をもつ つかむ・見通す	情報や既習を「知る」「収集する」	3・4年社会科実践（H27・28）
		課題を「知る」「調べる」「想像する」	1・2年国語科実践（H27）
		記事を「比べる」「関係づける」	
		学習方法を「知る」	
展 開	調べる 考える 高める 広げる	情報を「収集する」	3・4年社会科実践（H28）
		事実を「調べる」	
		記事を「読む・読解する」	5・6年家庭科実践（H26）
		「比べる・関係づける」	5・6年国語科実践（H27）
			1・2年国語科実践（H28）
		共通点やちがいを「思考・判断する」	5・6年国語科実践（H27）
		考え方を「組み合わせる」	1・2年国語科実践（H27）
		「見方をかえる」	5・6年国語科実践（H27）
		「創る・つくる」	1・2年国語科実践（H26）
終 末	まとめる 振り返る いかす	「批判する」「評価する」	
		記事や考え方を「関係づける」	5・6年国語科実践（H26）
		「組み合わせる」	
		「深める」「評価する」	5・6年国語科実践（H28）
		自己を「振り返る」	
		新たな目標や課題を「見通す」	

(2) 児童の主体的な学習を促進する学習掲示（新聞記事の活用）

新聞記事の文章構成の基本となっている「5W1H」を、学年の発達段階に応じた表し方で教室に掲示し、児童の表現に対する意識付けを行っている。



(3) 「ファミリーフォーカス（親子の対話）」

実践の継続（家庭との連携）

毎週末は、全児童で週末NIE課題に取り組んでいる。児童だけでなく保護者の欄を設け、親子で一つの記事に対する思いや考えを語り合う場づくりを意図した取組を継続している。

今年度は、各学年段階で記事を選んで実践している。そして「互いを認め合う」場として校内掲示を行っている。



(3) 新聞記事の閲覧コーナーの設置

NIE実践指定の年間購読支援を受けて、様々な新聞を4か月分いただいている。可能な新聞については、子ども向け新聞で対応してもらっている。加えて、1つの子ども向け新聞を年間を通じて購読できるように予算化している。

朝の会での「今日のニュース」発表の事前調査や教科等での調べ学習で新聞コーナーを活用したり、ファミリーフォーカスの記事選びをしたりしている。



(4) 新聞に掲載された投稿作品の掲示

南日本新聞や市報等に掲載された児童の作品や、学校や校区の行事に関する記事を校内掲示して、活動や表現への意欲喚起を目指している。

今年度は、南日本広友会の社会事業の支援を受け、5・6年児童3名で「わたしたち ふるさと発見隊」の取材活動を行い、学校と地域とのつながりを主テーマとした記事作成を行った。新聞一面に大きく掲載されたことで、児童の達成感が高まった。



4 NIE実践指定3年目を経た成果と課題

成果	○ 学校生活の中で「新聞活用」が浸透してきた。学習活動において、児童が調査対象の一つに「新聞」を自然と取り上げるようになってきている。 ○ 新聞「を」学ぶ学習から、新聞「で」学ぶ学習へと意識が変わり、学習指導目標達成に向けた有効な新聞記事活用という視点でのNIE授業実践に発展してきている。 また、NIE実践の研究を通して、複式学習指導の在り方を根本から見直す機会となり、授業研究の充実につながっている。 ○ 児童の作品や活動の様子が記事として掲載されることで、児童の学習活動への意欲付けにつながっている。さらにテーマに基づいた新聞記事作成を通して、取材活動から原稿執筆活動などの体験を通した学習の深まりも見られた。
課題	○ 教育課程編成にあたり、各教科ごとに新聞記事活用が学習目標達成に有効である単元や題材を集約した年間指導計画の作成が、これまでの実践を生かすこととなる。 ○ NIE実践による児童の学力向上の実態を把握する手立てと実態の集約を行うことが研究のまとめにつながる。 ○ PTA活動と連携したNIE実践の充実と親子のふれあいを深める新聞活用（ファミリーフォーカス）の充実が、児童の表現に対する意欲喚起につながる。